

平成28年度秋期

# スーパーバイザー士筆記試験

平成29年1月18日(水)実施

13:40~14:40

## 3. 財務・問題解決

(該当講義 講義③、⑥、⑦)

### 答案作成上の注意

- ◇ 解答用紙の所定の欄に受験番号と氏名を記入してください。
- ◇ 係りの合図があるまではこの表紙をあけないでください。
- ◇ 解答は解答用紙に記入してください。
- ◇ 試験時間は60分です。
- ◇ 試験開始後30分で退出できます。
- ◇ 退出される際には、出入口にいる事務局員に解答用紙を提出してください。
- ◇ 再入場はできません。



一般社団法人

日本フランチャイズチェーン協会

## 財務諸表の知識(税務含む)

### 【問題 1】

次の①～⑩の取引から解答用紙の貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。特に記述のない場合には、それぞれの取引は現金で行ったこととする。なお、解答にあたっては数字の単位に十分気をつけること。

1.	当社は01年4月1日に資本金3,000,000円で設立した。決算日は3月31日。今期の事業年度は01年4月1日～02年3月31日(以下、「今期」という)
2.	今期の売上高は50,000,000円であり、このうち3,000,000円は未回収である。
3.	今期の仕入高は30,000,000円であり、このうち2,000,000円は未払いである。
4.	02年3月31日に商品の棚卸しを行った結果、仕入金額ベースで2,500,000円分あった。
5.	今期の役員・従業員に対する給与は総額で8,000,000円であった。
6.	01年4月1日に金融機関から20,000,000円借り入れた。返済期間は7年。今期中に返済した元本の額は3,000,000円であり、今期はこの元本返済の他に支払利息400,000円を支払った。
7.	固定資産(器具備品)の購入価額は20,000,000円であり、01年4月1日から事業用として使用している。
8.	上記⑦器具備品の耐用年数は10年(定率法による償却率は0.20)。定率法により今期の減価償却費を計算すること。
9.	今期に支払った家賃は5,000,000円。
10.	その他今期の諸経費として4,000,000円支払った。

### 【問題 2】

上記問題 I ⑦で購入した固定資産(器具備品)については、01年4月1日～02年3月31日の事業年度において1年分の減価償却費の計上を行った。この資産を03年3月31日まで引き続き保有していた場合における02年4月1日～03年3月31日の事業年度における1年間の減価償却費を求めなさい。償却計算を行う場合の償却方法及び償却率に変更はなく、計算結果に1円未満の端数が生じた場合には、その都度切り捨てることとする。

### 【問題3】

次の1～9の文章の記述が正しい場合には○を、誤っている場合には×を解答欄に記入しなさい。なお、解答に際しては下記【参考①】【参考②】を使用しても良いこととする。

#### 【参考①】給与所得控除額表（給与所得者の概算経費の速算表）

給与収入金額	給与所得控除額
162.5万円以下	65万円
162.5万円超180万円以下	給与収入金額×40%
180万円超360万円以下	給与収入金額×30%+18万円
360万円超660万円以下	給与収入金額×20%+54万円
660万円超1,000万円以下	給与収入金額×10%+120万円

#### 【参考②】個人所得税率表（速算表）

所得金額	所得税率	控除額
195万円以下	5%	0円
195万円超330万円以下	10%	97,500円
330万円超695万円以下	20%	427,500円
695万円超900万円以下	23%	636,000円
900万円超1,800万円以下	33%	1,536,000円

1.	1年間の給与収入が103万円の人、給与所得控除額が65万円であるため、給与所得金額は38万円となる。そしてすべての納税者に基礎控除額38万円が適用されるため、課税所得金額は0円となり、所得税額は0円となる。
2.	1年間の給与収入が660万円の人、給与所得控除額は、1,860,000円である。
3.	1年間の給与収入が500万円の人、給与所得金額は、1,540,000円である。
4.	個人の課税事業者は、原則として課税期間の末日の翌日から2カ月以内に消費税及び地方消費税の確定申告書を提出し、消費税を納付しなければならない。
5.	法人の課税事業者は、原則として課税期間の末日の翌日から2カ月以内に消費税及び地方消費税の確定申告書を提出し、消費税を納付しなければならない。
6.	所得税の確定申告期限は、所得税の計算期間である1月1日から12月31日の翌年2月16日から3月15日までである。この確定申告による所得税の納付期限は、原則として確定申告期限と同じである。
7.	印紙税の確定申告期限は、原則として決算日後2カ月以内である。
8.	直接税の代表的な税目は、所得税、法人税、相続税であり、納税義務者と税金負担者が同じである。
9.	フランチャイズ本部が、加盟店に返還を要しない加盟金や契約金を加盟店から受け取った場合には、その加盟金や契約金は、フランチャイズ本部の長期預り金として貸借対照表の固定負債の部に計上される。

計数管理の知識

【問題 1】

次の文章を読み、正しいものに○、誤りのあるものに×を解答欄に記入してください。

1.	総資産経常利益率を把握することで、企業の財務上の安全性を分析することができる。
2.	総資産回転率は、回転数が少なければ少ないほど効率的に資産を活用している。
3.	売上高営業利益率を向上させるためには営業外費用を削減することが必要である。
4.	商品の廃棄ロスを削減することは、売上原価率の低減には結び付かない。
5.	損益分岐点の引き下げは、変動費率の増加が必要である。
6.	「限界利益=固定費」の状態の売上高が損益分岐点である。
7.	流動比率は 80%以下であれば、短期的な支払能力が良好といえる。
8.	固定長期適合率は 100%以上であれば、長期資金の調達と運用のバランスは良い。
9.	自己資本比率向上のためには、借入金を増やし資金繰りを楽にすることが必要である。

【問題 2】

下表はカフェバーカーリーを展開するフランチャイズ加盟社 A 社の新店の月次損益計算書です。次の文章の空欄に適切な記号（大文字のアルファベット）を下記の語群より選択し解答欄に記入してください。

項目	金額(円)	構成比
売上高	5,173,771	100.0%
売上原価	1,221,613	23.6%
売上総利益	3,952,158	76.4%
販売費及び一般管理費	3,445,154	66.6%
人件費	1,318,775	25.5%
水道光熱費	208,650	4.0%
販売促進費	71,123	1.4%
減価償却費	175,374	3.4%
地代家賃	720,000	13.9%
ロイヤルティ(売上高×5%)	258,689	5.0%
その他経費	694,543	13.4%
営業利益	507,004	9.8%

A 社新店の変動費率は、売上原価とロイヤルティを変動費、ロイヤルティ以外の販売費及び一般管理費を固定費とし、%単位の小数点第 2 位を四捨五入すれば（ ① ）になる。損益分岐点売上高は小数点第 1 位を四捨五入すれば（ ② ）になる。したがって、損益分岐点比率は（ ③ ）、安全余裕率は（ ④ ）になる。

A.	23.6%	B.	28.6%	C.	4,509,364 円
D.	4,462,836 円	E.	87.2%	F.	86.3%
G.	12.8%	H.	13.7%		

## 問題解決手法

### 【問題 1】

以下の問いに記号で答えてください。

1. SVがコンサルティング機能を実践するポイントとして、以下の記述で正しいものを選びなさい。

(ア)	FC本部の理念や経営方針、各種基準を熟知する。
(イ)	担当店舗の現状は、できる限り定性的なもので把握する。
(ウ)	オーナーや店長に問題を指摘し、あとは任せる。
(エ)	改善のプロセスは、各店舗の事情が反映されるので他店の参考にする必要はない。

2. 問題にはいくつかの型がありますが、以下の記述で正しいものを選んでください。

(ア)	発生型問題は、原因志向型問題とも呼ばれている。
(イ)	探索型問題は、将来の環境予測に基づいて目標設定する。
(ウ)	設定型問題とは、現在設定している目標との差異が生じた場合の問題を指す。
(エ)	未達問題は、設定型問題のうちのひとつのパターンである。
(オ)	回避問題は、探索型問題のうちのひとつのパターンである。

3. MECEになってるのはどれですか。

(ア)	飲み物は、ノンアルコール飲料とアルコール飲料に分解できる。
(イ)	飲み物は、清涼飲料と炭酸飲料に分解できる。
(ウ)	飲み物は、お酒と炭酸飲料に分解できる。

4. 問題を細分化するために売上高を細分化する視点として正しい記述はどれですか。

(ア)	売上高を時間軸や顧客軸で細分化することで問題を細分化しやすくなる。
(イ)	売上高を細分化するのは、問題の細分化には役に立たない。
(ウ)	売上高を細分化する視点として、顧客の利用動機などは役に立たない。

5. 問題を絞り込む方法について、以下の記述で正しいものはどれですか。

(ア)	他店との比較は、問題の絞り込みにはあまり有効ではない。
(イ)	グラフや表などを活用すると比較しやすく絞り込みが容易になる。
(ウ)	KPIは、設定が難しいので中小のチェーンではあまり活用しないほうが良い。

6. 原因究明について以下の記述で正しいものはどれですか。

(ア)	原因は問題を裏返すことで容易に究明できる。
(イ)	ブレインストーミングは、原因究明の手法として有効である。
(ウ)	原因を絞り込む際には、以前と比較して変化の大きい要素を特定することがポイントとなる。

7. 正しい因果関係について、以下の記述で間違っているものはどれですか？

(ア)	売上が低下したので賞与が削減された。
(イ)	業務改善を行ったので一人当たりの生産性が改善した。
(ウ)	雑誌で自店のことが取り上げられたので客数が増加した。

### 【問題2】

以下の文章の空欄に正しい言葉を語群から選び、記号を記入してください。

スーパーバイザーに求められる主な機能には、コンサルティング、( ① )、( ② )、コミュニケーション、コントロール、プロモーションがあります。それぞれの言葉の頭文字を取って5C+Pと呼ばれています。そして、5C+Pの中でもスーパーバイザーが最も求められる機能である( ③ )機能を実践するために欠かせないのが、問題解決スキルです。そこで、スーパーバイザーが、問題解決をうまく実践する際に留意すべきポイント以下です。

- ・店舗の( ④ )を明確にする。
- ・スケジュールは具体的に計画し、店舗とSVは進捗を共有する。
- ・( ⑤ )の基準を決めておく。
- ・計画変更など継続、中断の基準を決めておく。

またチェーンとしてノウハウ化するための活動は以下です。

- ・( ⑥ )と成果は記録に残しておく。
- ・( ⑦ )にかかわらず、今後のノウハウ化に向けた( ⑧ )を行う体制を整備する。

ア	カウンセリング	イ	コンピューティング	ウ	クリエイティブ
エ	責任者・担当者	オ	差別化	カ	コーディネーション
キ	利益額	ク	予算	ケ	効果測定
コ	成功・失敗	サ	情報共有	シ	予算計上
ス	コンサルティング	セ	費用	ソ	プロセス